



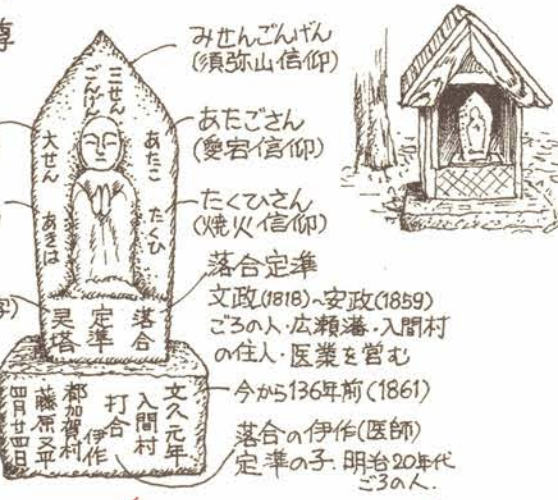
元龜元年 富田城救援と尼子勝久討伐のために、毛利軍が進出した「かす坂峠」

尼子にせめられた 富田城に向うため 輝元は、かす坂峠の積雪状況を調査させた。その時の書状が残っています。その後雪の中を進出して 尼子軍に大勝した。



休憩所

都加賀地区の
お守り
地蔵尊



みせんごんげん (須弥山信仰)
あまごさん (安喜山信仰)
たぐみん (焼火山信仰)
落合定準
文政(1818)~安政(1859)
ごろん、広瀬藩・入間村の住人・医業を営む
今から136年前(1861)
定準の子 明治20年代ごろ



泉原たたら町指定史跡
泉原たたらは江戸時代たたら製鉄所の跡です。S57年に発掘調査後うめもとして保存されました。

都加賀八幡宮のよにお堂があり何体かのお地蔵さんが安置されています。その一体が「あごなし地蔵さん」

あごなし地蔵尊
あごなしとは阿古奈とあながいつの間になまふあごなしとなったのだそうです。



案内板あり。



「殿山」
殿山という山に昔城があった。城の前に広い馬場がありそこから宮の前にある的場へ弓を射ていた。その城には殿居の巻をする者もいたところから、この山を殿山と呼ぶようになった。

とんばらちよう 頓原町 都加賀

加賀の都に似ていると言われることから都加賀と名前がつけられたとも言います。

都加賀地区には後鳥羽上皇の隠岐ご遷幸にまつわるものとして隠岐原とか上皇がご通過になった原で 国主原とかの名前が現在でも使われています。



吹ヶ峠のお地蔵さん

大正天皇がとんばらいらは坂の途中より妻引山を眺められたといひ伝えられています。



外国人技師による設計で明治20年頃につくられた『シキタラ』という石づくりの橋があります。これは、みごと!!

「沖ノ郷山 山頂からの展望案内」板があり封。晴れた日には、東は大山、西には三瓶山、南は備後山並み、北には遠く島根半島そして日本海が一望できます。

東から南方面と西から北方面が案内されています。丁頂点(三角点)です。



「沖ノ郷山」
隠岐へ配流となった後鳥羽上皇が、沖ノ郷山のふもとで一夜を過ごされた時、旅者の者たちがこの山に登り、これから流されていく隠岐の島を眺め上皇をお慰めをしたということから、この山を「隠岐ノ郷山」と呼ぶようになったといわれています。

さこの水飲み場です。これより先は、左手の尾根に登るので、水はありません。



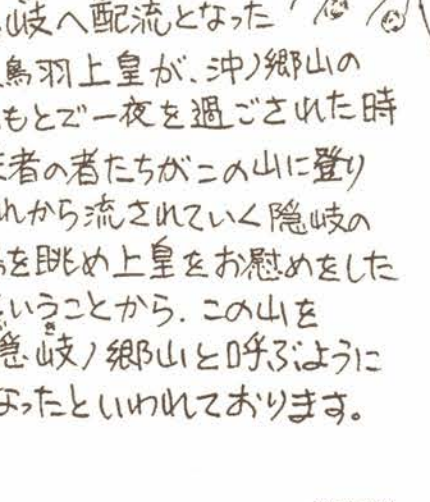
山頂まで0.6km
沖ノ郷山(標高160m)

登山道は、はきりしてありますが、ゆるい体力にありせめて登りまじう。(駐車場より約90分位で登れます)



尾根沿いに生えているツバキ

尾根に立つキノコ発見!?
まるでキノコの前足のような木が2本あります。ちいさいとせうい。



尾根に立つキノコ発見!?